○岩出市長賞（中学生）

「税金は未来への思いやり」

岩出市立岩出第二中学校　三年　岩倉　心音

「自動車税を納めに行かないといけないな。」ある日の夕食中、母がそうつぶやきました。私は、「買い物するたびに消費税も払わないといけないし、税金は私達のお金が減ってしまうものというイメージしかないな。」と言いました。すると母は、「そう思うわよね。でも、その税金のおかげで、あなたも助けられているのよ。」と言いました。私は、「どういうこと？」と聞き返しました。母は、「あなたは二度、救急車で病院に運ばれたことがあったでしょう。救急車や病院で安心して治療を受けられたのも、多くの人が納めてた税金に支えられているのよ。」と教えてくれました。

その言葉を聞いた瞬間、私はあの日のことを思い出しました。突然、お腹に激しい痛みが走り、立っていることもできなくなりました。「誰か助けてほしい。」という思いでいっぱいになり、不安で涙が出そうでした。そんな私に救急隊員さんは、「大丈夫ですよ。もう少しで病院に着くからね。」と何度も優しく声をかけてくれました。その言葉を聞くたびに、不安でいっぱいだった心が少しずつ落ち着いてきました。病院に着くと、看護師さんも、「大丈夫ですよ。」と言って背中をさすってくれました。母は何も言わず、心配そうに私の手をぎゅっと握ってくれました。その温かい手に、「一人じゃないんだ。」と思うことができ、張りつめていた気持ちが安心へと変わっていったことを今でもはっきり覚えています。

私は、あのとき助けてもらえたことを当たり前のように思っていました。しかし、救急車や病院の医療体制も、多くの人たちが納めた税金によって支えられていることを知り、税金は命や安心を守るためにも使われているのだと初めて気づきました。それからは、身の回りの景色が少し違って見えるようになりました。学校で毎日使っている教科書や楽しみにしている給食、休日に妹と遊ぶ公園も、多くの人たちが納めた税金によって支えられています。妹は公園へ行くと夢中で遊び「まだ帰りたくない。」と言うほど楽しく笑っています。その笑顔を見るたびに、安心して遊べる場所があることも、多くの人たちの支えがあるこそなのだと思っています。以前の私は、税金は『負担』でしかありませんでした。しかし今は、困っている人を助け、子供たちの学びや笑顔、そして命を守るために欠かせないものだと考えています。税金は、顔も知らない誰かが、今を生きる私たちや未来の子供たちのために託してくれた思いやりなのだと思います。

将来は、私も税金を納めることで誰かを支える側になりたいです。あの日、「大丈夫ですよ。」という言葉に安心した私のように、未来の誰かにも安心を届けられる大人になりたいと思います。私にとって税金は、人と人とをつなぐ『未来への思いやり』です。